

小樽 真学長 帯広 奥田 潔学長 北見 鈴木聡一郎学長

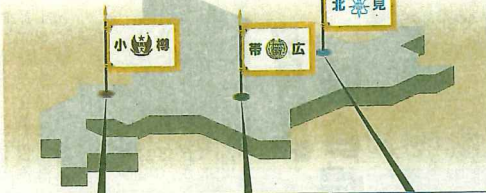


Table with 3 columns: 小樽商科大, 帯広畜産大, 北見工業大. Rows include: 開学 (1911, 1941, 1960), 学部生数 (2242, 1168, 1753), 大学院生数 (101, 146, 263), 教員数 (120, 130, 141), 収入総額 (32億6600万円, 56億7700万円, 44億6700万円).

収入総額(下段はのうち運営費交付金)
小樽商科大 32億6600万円 13億5500万円
帯広畜産大 56億7700万円 32億7500万円
北見工業大 44億6700万円 24億3900万円

Three columns highlighting key features: ビジネスや語学に注力 (Business and language focus), 畜産に強み構内に酒蔵 (Strength in agriculture and wineries), 防災や環境課題を解決 (Solving disaster and environmental issues).



あなわ・まこと 大阪府出身。北大経済学部卒業。同大大学院経営学研究所准教授を経て、1989年に小樽商科大で助教授、07年から教授、専攻長、副学長、国際推進部長などを歴任。2020年に現職、専門は経営学、組織論、労働論、64歳。



おの・きよし 福井県出身。1987年帯広畜産大農学部獣医学部を卒業。獣医(シロ)・体内寄生学や食肉衛生学等。帯広畜産大助教授、獣医(シロ)工科大学員教授、岡田出雲学部長などを歴任。2016年から現職、専門は動物衛生学、68歳。



すずき・そういちろう 函館市出身。北大工学部農工学科卒業後、アシックス社、08年から東北大学病院情報科学研究科准教授。2011年から北見工業大教授(ロボット工学)、同大冬季、小樽商科大に転任、専任は経営学、61歳。

農・商・工の大学団結

来春に道内3校運営統合 学長の狙いは

北海道の発展に役立つ研究と人材育成にどのように取り組むのか。北海道新聞の呼び掛けで帯広畜産大の奥田潔学長(68)、小樽商科大の穴沢真学長(64)、北見工業大の鈴木聡一郎学長(61)が帯広に集まり、統合の背景や期待される効果、将来像について話した。



帯広畜産大、小樽商科大、北見工業大の3国立大が運営法人を統合し、「北海道国立大学機構」を帯広市に発足させる予定の2022年4月まで、あと1年余りとなった。国立大3法人による統合は全国初のケースだ。3大学がそれぞれ持つ農学、商学、工学各分野の強みをいかに融合させ、

地方創生 目的と意義

「統一の民間団体として、奥田氏、農学、商学、工学と専門的な大学が一緒にならなれば、農学や工学の発展に乏しく、国際社会にも貢献することができない。各地で急速に進む人口減少や高齢化を背景に、各大学が持つ強みを活かして、地方創生のために一石を投じてほしい。」



研究共有して一括管理 鈴木氏

「22年以降に、企業や地域のニーズに応じて、産学連携のプラットフォームを構築し、研究共有のシステムを構築し、一括管理を実現したい。」

事務集約、効率化図る 名称やキャンパス存続

帯広畜産大、小樽商科大、北見工業大は統合あり、運営法人は北海道国立大学機構とする。名称やキャンパスの存続については、今後決定される。

距離問わぬ統合 加速も 穴沢氏

「統合は効率化を図るため、距離は問題ない。むしろ、それぞれの強みを活かして、産学連携を加速させたい。」

統後の体制

北海道国立大学機構 (帯広市) 理事長
小樽商科大 学長
帯広畜産大 学長
北見工業大 学長

事務集約、効率化図る 名称やキャンパス存続

工業は統合あり、運営法人は北海道国立大学機構とする。名称やキャンパスの存続については、今後決定される。帯広畜産大、小樽商科大、北見工業大は統合あり、運営法人は北海道国立大学機構とする。名称やキャンパスの存続については、今後決定される。

経営の方針

「統一の民間団体として、奥田氏、農学、商学、工学と専門的な大学が一緒にならなれば、農学や工学の発展に乏しく、国際社会にも貢献することができない。各地で急速に進む人口減少や高齢化を背景に、各大学が持つ強みを活かして、地方創生のために一石を投じてほしい。」

構成・幸坂浩、日野夏美、古市優佳